横断行動時における 交通事故当事者の意識について

上野 精順 (大阪工業大学)

On Consciousness of the Persons concerned

Traffic Accident during across the Street

SEIJUN UENO (Osaka Institute of Technology)

1. はじめに

高齢者の交通事故には様々な形態があるが、そのなかで最も多いのが人対車両で、高齢者が道路を横断中に事故に遭うケースが多い。

そこで、平成2年7月～11月に兵庫県下で発生した高齢横断者の負傷事故 123件・123人について、警察での調書作成時と同時に、面接法により当法で作成したアンケート用紙に記録したデータから、事故直前的高齢者とドライバーの意識面について分析した結果を報告する。

2. 高齢横断者の属性

横断中に事故で負傷した高齢者は、図1のように男性64人(52.0%)、女性59人(48.0%)と大体半々である。しかし、死亡事故については圧倒的に女性が多い。これを年齢別に示したのが表1で、各年齢層とも平均して事故に遭っていることがわかる。

図2は、横断状態別の結果である。負傷事故では、歩行中が76人(61.8%)、自転車乗用中が47人(38.2%)であるのに対し、死亡事故は歩行中が92.7%と圧倒的に高い比率を示している。

事故発生道路についてはドライバーも高齢者も熟知

しているようで、ドライバーの62.6%が「よく通る」、高齢者の56.1%が週に3～4日以上横断していると回答している。

3. 当事者の意識

図3は、高齢者の目的地への急ぎと安全確認との関係を示しているが、急いでいないのにも関わらず、安全確認をしない者が55.2%もいるのが目立つ。急いでいるいないに関わらず、安全確認をしている人は、50人(41.3%)と約4割に過ぎない。したがって、高齢者は接近車両に気づかない比率も高く、64.2%(79人)を占め

表1 高齢者の年齢

年 齢	死亡事故		負傷事故	
	人数	(比率)	人数	(比率)
65～70	10	(24.4)	37	(30.1)
71～75	12	(29.3)	26	(21.1)
76～80	9	(22.0)	30	(24.4)
81～85	6	(14.6)	20	(16.3)
86以上	4	(9.8)	10	(8.1)
合 計	41	(100.0)	123	(100.0)

図1 高齢者の性別

図2 高齢者の横断状態

ている。一方約7割のドライバーが事故直前まで高齢者に気づかなかったと回答している(表2)。

図3 急ぎと安全確認の関係

図4 高齢横断者存在の意識

図3 急ぎと安全確認の関係
因は種々指摘できようが、「こんな場所に横断者がいるとは思わなかった」が60.2%ということからも、いわゆる漫然運転が一つの原因と考えられる(図4)。

表2 高齢横断者への認知

解答	コード番号	人数	比率
はい	1	83	67.5
いいえ	2	36	29.3
不明	3	4	3.3
合計		123	100.0

図5は、道路幅員と横断の可能性との関係を示している。幅員が比較的小さい場合には約4割程度であるのに対し、7~9mでは6割以上、9m以上では7割以上が横断可能と判断しているのが特徴的である。これは、高齢者の判断に対する甘さ、接近車両に対する速度判断や距離判断能力の不十分さを示唆するものである。

図5 道路幅員と横断の可能性の関係

表3は、高齢者の「横断する自分にドライバーが気づいて止まってくれると思ったか」と、ドライバーの「高齢者に気づいていたが横断するとは思わなかったか」という設問のクロス分析の結果である。高齢者とドライバーの意識が相反している最も危険な組み合わせ、すなわち高齢者は「車が止まってくれる」と思い、ドライバーは「高齢者は横断しない」と判断して事故になったのが、33.3%と3件に1件の割合であるのが目立つ。また、ドライバーは「高齢者は横断する」と判断しつつ進行して事故になったのが半数以上の55.6%もある。

表3 高齢者とドライバーの意識のズレ (1)

高齢者側 \ 運転者側	思っていた	思っていなかった	合計
	人数 (比率)	人数 (比率)	人数 (比率)
思わなかった	12 (33.3)	3 (8.3)	15 (41.6)
思っていた	20 (55.6)	1 (2.8)	21 (58.4)
合計	32 (88.9)	4 (11.1)	36 (100.0)

表4 高齢者とドライバーの意識のズレ (2)

高齢者側 \ 運転者側	気づいていた	気づかなかった	合計
	人数 (比率)	人数 (比率)	人数 (比率)
注意していた	7 (8.5)	19 (23.2)	26 (31.7)
注意していない	4 (4.9)	52 (63.4)	56 (68.3)
合計	11 (13.4)	71 (86.6)	82 (100.0)

表4は、高齢者の接近車両の気づきとドライバーの高齢者に対する注意運転の関係を示しているが、高齢者が接近車両に気づかないで横断し、ドライバーも高齢者に注意していなかったために事故になったのが6割以上もある。これ

らのことから、高齢者とドライバーの意識が大きく異なっていることは明らかで、今後は高齢者に対しては安全確認の徹底、ドライバーに対しては高齢者の安全確認の不十分さや行動特性の理解性を安全教育等で高めていくことが重要である。